

平成25年度「水環境文化賞」を受賞して

NPO法人大淀川流域ネットワーク代表理事 杉尾 哲

この度は、健全な水環境の保全と創造に関する学会から荣誉ある水環境文化賞をいただき、誠にありがとうございます。本年は当団体の設立10周年にあたります。活動してまだ日は浅いですが、その記念の年に活動を表彰していただき、今後の活動の励みになります。会員一同を代表して、厚くお礼申し上げます。

当団体は、大淀川流域を活動の場として、河川環境の保全や川づくりおよび川文化の向上の推進を目的として、会員数約110名で活動しています。当団体の目標は「大淀川の清流を復活させよう!」です。活動の内容は、情報の共有化を図るための広報誌の発行、水環境の保全・創造の大切さについての住民理解の向上のための講習会・研修会の開催、水環境の実態を把握するための水辺環境の調査、大淀川の水質改善のための水質改善プロジェクトの実施、水辺で楽しく自然を体験するためのイベントの開催などです。これらの活動には、住民や団体、企業、行政などが相互に活動を支え合い、多種多様な連携による協働事業を推進することが大切だと考えています。これらのうち、下記の活動が受賞対象となりました。

○独自の水辺環境指標の作成および普及活動

この活動は、当団体が平成17年度に実施した宮崎県環境管理課との協働事業において、宮崎県独自の「五感を使った水辺環境指標」を策定して、普及活動を継続して実施してきたものです。その水辺環境指標は、環境目標を「自然にふれあえる水辺」に設定していて、小中学生をはじめ大人にも分かりやすい内容の6項目で構成しているのが特徴です。その普及啓発のために、イラストを大きく配置した子ども用の調査と記録のしおりと、調査方法についての詳細な説明や調査場所の選定・下見、安全・リスク管理などの注意点について解説した指導者用のマニュアルを作成しました。それらを使って、大淀川流域に留まらず、宮崎県内各地において学校教育者や団体指導者を対象とした指導者育成講習会と県民啓発の水辺調査会(写真)を実施してきました。

また、情報発信用にポータルサイト「ふるさとの水辺」を立ち上げ、各年度の調査結果を地図上に表示したマップを掲載するとともに、水辺環境調査を実施した代表校による「ふるさとの水辺発表会」も行っています。また、子ども用の調査と記録のしおりと指導者用のマニュアルをダウンロードできるようにしています。

この結果、独自の水辺環境指標は、宮崎県内各地の学校やさまざまな市民団体、家族などで身近な川や池などの水辺環境を調べる際に活用されています。平成25年度には、県内の41河川、58か所で、55団体、2,454名の非常に多くの方々が参加して水辺調査が実施されまし

た。この独自の水辺環境指標が、幅広い世代に水環境の保全・改善の大切さについての理解を深めさせるのに役立っていることを感じています。

○児童、市民を対象とした体験型環境学習

この活動は、流域住民や子ども達に大淀川について関心を持ってもらい、大淀川の素晴らしさについて正しく理解してもらうために実施している活動です。夏休みの「大淀川子ども教室」や特別支援学級の生徒を対象とした「カヌー体験教室」、県民の河川愛護意識の醸成を図るために宮崎県河川課との協働事業として実施している「河川愛護シンポジウム」、宮崎市環境保全課との協働事業として実施している親子を対象とした月1回の「大淀川と友達になろう」などのいろいろなイベントを開催しています。

○県内外の技術者を対象とした研修会などの運営

この活動は、宮崎県河川課との協働で設立した「宮崎県自然豊かな水辺の工法研究会」の運営です。具体的には、宮崎県内外の河川や砂防に関する行政および企業の技術者を対象に多自然川づくりに関する技術力の向上を図ることを目的として大学や研究所からお二人の講師をお招きした年4回の「水辺の工法研修会」や九州大会の宮崎県予選を兼ねた「うるおいのある川づくりコンペ」、および県内全土木事務所での地域住民による水辺環境のモニタリング成果を報告し合う「身近な水辺のモニター報告会」などを開催実施しています。

今回の受賞を励みとして、今後も活動を継続し、河川環境の保全や川づくりおよび川文化の向上になお一層貢献していきたいと思っております。



写真 小学生の水辺調査会